

	学級集団	ひとり読み	話し合い (集団の読み)	ふり返し	教材
A	クラスメート全員の名前を覚える 何でも言えるクラス 友達の発言を注意深く聞く	<ul style="list-style-type: none"> ひとり言を言う。(書く) 描写や会話文から人物の様子や気持ちを想像する。 様 気 自分が思ったことを書きこむ。 思 場面の設定で分かったことを書く。(時、人物、場所、できごと) ① わからない言葉。 ② 次の場面を予想する。 ③ 	<ul style="list-style-type: none"> 書きこみを順番に発表する。 前置き発言をする。 登場人物ごとに発表する。(段落・文番号、記号、つけたし、ちがう、友だちへの質問) 友だちの発言に反応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間ごとの学習の内容や仕方(参加度・友達とのかかわり)についてふり返る。 登場人物に手紙を書く。 心にのこったことを中心に感想を書く。 	
B	集団の支え、励まし(発言の促しや援助)がある。	<ul style="list-style-type: none"> こみだしをつけられる。 人物の行動の理由が考えられる。 ④ 人物の気持ちの変化を読みとる。 ⑤、⑥ ⑦ 「場面・背景」をおさえて人物の気持ちを想像する。 ⑧ 「場面・背景」をおさえて「できごと」を読みとる。 ⑨ 感想意見を書く。 地の文と会話文の働きに留意して読み分ける。 ⑩ 作者の表現の仕方(文法・文体・語句の使い方)に留意して読み取る。 ⑪ 	<ul style="list-style-type: none"> 柱立てをして話し合う。(項目作り：人物、事柄、課題) 読みを深めるための討論をする。 友だちの発言にからめて発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小見出しや中見出しを表にまとめ、副題をつける。また、副題についての感想意見をまとめる。 「その作品で学んだ目」で自分の生活をみつめなおして感想を書く。 	
C	学習班が成立している。	<ul style="list-style-type: none"> 作品世界や構成をおさえて人物形象を作り上げる。 物語の展開の仕方(構造)に着目して作品を読む。 ⑫ 作品の主題(テーマ)・思想について考えられる。 ⑬ 	<ul style="list-style-type: none"> 柱立てをして話し合う。(項目作り：課題) 自分の立ち位置を明らかにして発言する。 話し合いの進行や整理に関する発言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間ごとの学習の内容や仕方(友達の意見から自分をみつめる)をふり返る。 作者への感想・意見をまとめる。 作品の主題(テーマ)・思想について考えをまとめる。 「文学の目(視点の多様性と対象との距離の取り方)」で自分と自分の周りを見つめなおして感想を書く。 	

◎ 項目について：子どもではなく、「学級集団」にする。

<理由> 子どもは集団で存在している、授業は学級集団でおこなう

：「ひとり読み」・・・「ひとり」はひらがなを使用(児言研できめていること)

：「話し合い」と「集団の読み」は同じ内容をさす。

◎ 表の見方：BはAを含む、CはA・Bを含む

◎ 記号：記号はクラスで作っていくもので、普遍性はない。

記号は子どもが文章を読んでいく上での視点・切り口を表すものである。

◎ 「ふり返し」：「ふり返し」は、一時間ごとのふり返しと、最後まで読み終わった時のふり返しをさす。また、ふり返しは、自分の読みをふり返る作業である。